

平成 28 年度 第 2 回 行政改革推進委員会 議事録（要旨）

1 日 時 平成 28 年 12 月 22 日（水） 13 時 00 分～15 時 00 分

2 場 所 糸島市役所 第二庁舎 2 階 5 号・6 号会議室

3 出 欠

(1) 出席者

（委 員）村藤会長、渡邊委員、石川委員、岩井委員、十時委員、林委員、廣川委員、藤原委員、南委員

（事務局）洞部長、山崎企画監、久我係長、西原主査、富村主査

(2) 欠席者

（委 員）徳田副会長、井上委員、山崎委員、大城委員、中野委員

(3) 傍聴者 なし

4 会議結果

【会議次第】

1 コーディネーターへの委嘱状交付（市政アドバイザー）

2 市長あいさつ

3 コーディネーターあいさつ

4 会長あいさつ

5 外部点検部会の設置について

6 協議

（１）平成 28 年度外部点検（試行）の点検施策選定実施について

7 外部点検について（コーディネーターより）

8 外部点検当日の進行について

9 その他 （外部点検会議 1 日目は、2 月 14 日開催予定

外部点検会議 2 日目は、2 月 22 日開催予定）

【議事概要】

■協議

（１）平成 28 年度外部点検（試行）の点検施策選定実施について

まず、事務局より選定方法について提案し、質問を受ける。

●A 委員

- ・各委員が自分の意見を言った後に、再度挙手をするのか。その意図は何か。
- ・過去の外部評価と今回の外部点検の所要時間を比較すると、長くなっているのか。

●事務局

- ・まずは各委員から点検したい施策とその理由などの思いを伺う。他の委員の意見を聴いて、点検したい施策が変わる場合も想定し、その後、再度挙手により施策を選定す

る方法を考えている。

- ・平成 24 年度から 26 年度まで実施した外部評価は、1 事業あたり 50 分だった。今回の外部点検は、1 施策あたり論点整理 15 分～20 分と点検対話 60 分の計 80 分。施策に紐づく複数の事務事業を施策単位で点検するため時間的には長くなっているが、1 事業あたりで考えると短いとも言える。

- A 委員

- ・複数の事業それぞれに点検資料があり、事前に読んでおかなければならないということか。

- 事務局

- ・そのように願います。

- B 委員

- ・点検候補の 8 施策を選んだ経緯を知りたい。

- 事務局

- ・実施要領の選定基準に基づき、除外基準の施策を機械的に除いた結果、8 施策が残った。具体的な除外基準は、法定受託事務のみで構成される施策や具体的な予算事業（主な事業）が紐づいていない施策などである。

- C 委員

- ・選定方法について確認する。まず最初に点検候補 8 施策の選定用資料について質疑応答、その後各委員が順番に自分の意見を言う、最後に挙手により決定という選定方法が提案されたが、この方法でよろしいか。他の方法があれば、提案を。

他の選定方法の提案なし。事務局提案方法で、各委員了承

次に、点検候補 8 施策の選定用資料について、質疑応答。

- D 委員

- ・「(2) 交通安全対策の充実を図る」の施策コストの所に記載の「社交金」とは何か。

- 事務局

- ・国から市へ交付される交付金的一种である。

- 事務局

- ・市が事業を行う際の財源として、市のお金で、使い道を制限されていない一般財源と、国・県からもらうお金や地方債として借金するお金など使い道を特定されている特定財源の 2 種類がある。社交金は、正式名称が社会資本整備総合交付金と言い、国から市へ交付される特定財源である。交通安全施設整備事業は、一般財源が 1,680 万円、特定財源が 1,520 万円、計 3,200 万円のコストとなっている。

- D 委員

- ・特定財源 1,520 万円のうち、国費はいくらか。

- 事務局

- ・国費である社交金が 880 万円、地方債が 640 万円である。

- A 委員

- ・交通安全施設整備事業は、路側帯のカラー舗装やガードレール、カーブミラーの整備をしているとの記載だが、通学路を対象に行っているのか。

- ・要望がなされた後、実施する、しないはどうやって決めるのか。
- 事務局
 - ・通学路以外の場所もある。
 - ・各行政区からの要望が多く、要望がなされたら現地を確認し、緊急性・必要性の高い箇所から優先順位を決め、順次実施している。地域性も考慮している。
- A委員
 - ・優先順位は市内部の判断で決定するのか。
 - ・市側で、どこを整備するというような計画があるのか。土地の買収などは行っているのか。
- 事務局
 - ・市内部の判断である。緊急性・必要性・地域性などから判断している。
 - ・整備計画はない。土地の買収もない。
- A委員
 - ・「(3) 豪雨による浸水被害を防ぐ」という施策についてだが、事業内容は公共下水道の整備であり、ハード事業であり、公共事業そのものと理解してよいのか。
- 事務局
 - ・そのとおり。
- A委員
 - ・公共下水道事業について、我々に理解できるのは、床上浸水戸数が0戸になるよう雨水管渠の整備を進めているということで、公共事業そのものであり、外部点検を実施しても改善策などは議論しようがないように思う。
- 事務局
 - ・施策の選定基準に基づき、純粋に除外施策を除いていった結果、この施策が候補として残っている。本日の選定協議の中で外部点検に適しているかも含めて選定していただきたい。
- C委員
 - ・このようなハード事業は、公共事業そのものであり、行政でやるしかないものである。確かに外部点検にはあまり適さないと思う。
- E委員
 - ・「(1) 地域で次世代を担う青少年を育てる」の中に、いとしま天文台事業というのがあるが、この事業が外部点検に選定されなかった場合、どうなるのか。天文台はすでに購入済であるが、事業そのものは実施されるのか。
- 事務局
 - ・外部点検は、事業そのものの廃止や継続を決める場ではない。施策推進に対してその事業がベストかベターかを考える場である。
- C委員
 - ・外部点検に選定されなければ、今までどおり市が実施するということである。
- A委員
 - ・「(1) 地域で次世代を担う青少年を育てる」に紐づく事業は、長期間実施しているのか。

- 事務局

- ・天文台に関するものは、平成 25 年からである。それ以外は、だいが前から実施していると思う。外部点検に選定された場合は、いつから実施しているかの情報も点検資料の中に記載する予定である。

選定用資料についての質疑応答終了

次に、各委員から選定したい施策及びその理由などの思いを聴く。

- F 委員

- ・「(1) 地域で次世代を担う青少年を育てる」を選定したい。ドリームトレーサー事業は受益者が少なく、恐らく市民側、小学生もあまり参加しないという傾向ではないかと思う。そのような事業について、担当課はどういう意図で事業を実施していこうと考えているのか、歴史的な経緯や背景などを知らないの、それらを聴いたうえで対話したい。また、なぜ天文台なのか、率直にうかがいたい。趣旨を理解したうえで、今後こういった事業をどうしたらよいかなど議論できればと思う。また、ジュニアリーダー育成事業は以前に外部評価を行った際は、担当者の熱意を強く感じた一方、視野が狭いのではないかと感じた。ある意味、青少年育成だけではないという観点で議論できれば建設的な議論ができるのではと思う。
- ・「(5) 防災・救急体制の充実を図る」を選定したい。特に救急体制の重要度が高いと思う。これから高齢者が増え、救急出動の頻度は高くなるとされる。一方、県では事業所を減らしていこうという動きもあり、一層救急体制は厳しくなると思う。そういったときに、どうやって救急抑制というか、呼び出さないかを計画していくかは大事なところで、救急は呼ばれたら行くだけの事業ではなくなる。医師と連携して、状況を聴きながら、市民へどうやって啓発していくのかという視点も必要になり、非常に幅広く社会的な事業だと思うので、選定したい。

- G 委員

- ・事務局に質問がある。(5) の施策に紐づく事業は、救助工作車整備事業と はしご付消防自動車分解整備事業の 2 つのみののか。F 委員が言われた内容に匹敵するような事業はないのか。

- 事務局

- ・施策選定用資料を作成するにあたり、施策に紐づく主な事業のみで作成したため、この 2 つのみとなっている。実際には、他に実施している事業もある。

- F 委員

- ・選定する際には、施策課題を中心に検討してよいのか。

- 事務局

- ・かまわない。

- G 委員

- ・3 つの視点で選定した。1 つ目の視点は、予算額が大きいもの。2 つ目の視点は、事業期間が外部点検後に長いもの。3 つ目の視点は、自分なりの改善案が出せるもの。その結果、(1)(4)(6)(7) の施策となった。
- ・「(1) 地域で次世代を担う青少年を育てる」は、予算額はあまり大きくないが、人

材育成は重要であり、見直して改善策を検討し、より良いものにしていきたいので選んだ。

- ・「(4) 防災対策を強化する」は、予算額が 2,500 万円、平成 30 年度まで継続する、河川の氾濫防止は重要なので選んだ。
- ・「(6) 警察、学校、地域などと連携して防犯・安全体制を確立する」は、予算額が 5,300 万円、継続事業もあり、安全安心まちづくりの重要性から選んだ。
- ・「(7) 図書館サービスの充実を図る」は、予算額が 7,100 万円、継続事業であり、図書館サービスはコミュニティ活性化の意味でもとても重要。新しい図書館もでき、より地域に密着した形を考えるのはよいことだと思い、選んだ。

● H 委員

- ・「(1) 地域で次世代を担う青少年を育てる」を選んだ。糸島生まれで糸島育ちだが、昔は青年団活動が活発だった。少子高齢化の中で青年団活動がすたれていったと思う。事業としてもマンネリ化があるのではないだろうか。ジュニアリーダー育成事業との結びつけなど、今後の取組の課題について聞きたいと思う。
- ・その他は、公共事業のことなどはわかりにくく、選びづらかった。強いて選ぶなら、(2) 交通安全対策の充実を図る、(6) 警察、学校、地域などと連携して防犯・安全体制を確立する、(7) 図書館サービスの充実を図るである。(7) は、新しい図書館ができたので、今後それをどうつなげていくのかということで、選んだ。

● D 委員

- ・(1)(2)(6)(8) を選んだ。選定にあたって、考えがまとまりにくい部分もあった。
- ・除外した施策について、(3)(4)(5) は、見直しは厳しいのでは、継続して実施するのがよいものだと思う。(7) は、図書館はだいぶ根付いてきており、図書の購入もこれまでの予算でだいぶできており、見直す部分がないのではと思う。
- ・「(1) 地域で次世代を担う青少年を育てる」は、色々な事業が紐づいているが見直しできるものが若干あると思う。
- ・「(2) 交通安全対策の充実を図る」は、方法を考えた方がよい部分が見受けられる。
- ・「(6) 警察、学校、地域などと連携して防犯・安全体制を確立する」は、補助金もあるし、見直しできるのではないかと思う。
- ・「(8) 文化財の保護を推進し、積極的に情報を発信する」は、文化財保護は大切だが、見直しできるのではと思う。

● A 委員

- ・私は、協働というイメージをいつも持っているので、市民との関わり、市民がこれをもとに何か考えられる機会になればよいという視点と、この事業をやって市民が行政と一緒に広がっていければよい、そういう事業がないかという視点で選んだ。
- ・市民に考えてもらうことが重要と思っており、例えば防犯や交通安全の話は、市民に投げかけて、こういう流れがある、その中でどこから選んでいくかという選び方を重要視すべきと思う。いつの間にか決まっているのではなく、調査研究に入り込んだ事業になればよいと思っているので、「(2) 交通安全対策の充実を図る」と「(6) 警察、学校、地域などと連携して防犯・安全体制を確立する」を選んだ。

- ・また、せっかく点検するので、市民とともに育っていくような事業を選定した方がよいと思う。例えば、図書館サービス。図書の貸し出しだけでなく、これからは情報センターとしての役割を担うことになると思う。情報センターにすることも、図書館サービス事業の中で考えていくことになる。情報発信拠点としての図書館という視点で、対話できたらと思い「(7) 図書館サービスの充実を図る」を選んだ。
- ・「(8) 文化財の保護を推進し、積極的に情報を発信する」は、文化財だけと考えがちだが糸島の重要な観光振興の資源であると思う。文化財の調査報告だけにとどまらず、特別展示などに市民がもっと関わってこれを伸ばしていく、具体的な個別の事業についても、単純に文化財を整備するだけでなく、それをどうやって広げていくか、ボランティア活動にも広げていけたらと考え、選んだ。
- E 委員
 - ・糸島に住んで 50 年、感覚的には、あまり変わらない糸島と思うので、少し見方を変えたり、広い視野で見ることができたらなあと思う 4 つの施策、(2)(5)(6)(8) を選んだ。
 - ・「(2) 交通安全対策の充実を図る」は、糸島の道路はうねうねと山あり丘ありで、そこに子ども達や高齢者がはりついていることを思うと、もう一回きちんと見直したいと思い選んだ。
 - ・「(5) 防災・救急体制の充実を図る」は、私は救急車を利用する機会が多いのだが、対応が何とつかざっとした感じを受ける。もっと温かいものがほしいと思い、選んだ。
 - ・「(6) 警察、学校、地域などと連携して防犯・安全体制を確立する」は、防犯体制は糸島のイメージとして、とても大事だと思う。安全な糸島に関して情熱を持って点検したいと思い、選んだ。
 - ・「(8) 文化財の保護を推進し、積極的に情報を発信する」は、文化財の話は昔からずっと粛々とあるが、変わり映えしない。糸島の文化財は素晴らしいものなので、マンネリ化したものをもう一度見直したいと思い、選んだ。
- B 委員
 - ・(2) 交通安全対策の充実を図る、(4) 防災対策を強化する、(5) 防災・救急体制の充実を図る、(6) 警察、学校、地域などと連携して防犯・安全体制を確立する、の 4 つを選んだ。
 - ・これら 4 つは、関連性があり、糸島ではどちらかと言えば遅れている分野だと思う。市民生活に密着したもので、市民からの要望も多い。(1)(7)(8) は、生活とは別の文化的なことであり、一番大切なのはやはり、地域住民が安心して安全な生活を送れることだと思うので、この 4 つを選んだ。
- I 委員
 - ・外部点検では、市民や外部との対話を通して、行政がこれからの業務をどう改善していくかということが求められているものだと思うので、成果指標の置き方や活動の方法について改善余地があるのではと感じる施策を選んだ。逆に、粛々と進めていくしかない、頑張るといふ施策については選ばなかった。
 - ・「(1) 地域で次世代を担う青少年を育てる」、「(5) 防災・救急体制の充実を図る」

「(6) 警察、学校、地域などと連携して防犯・安全体制を確立する」、「(7) 図書館サービスの充実を図る」を選んだ。(7) と (8) は、悩んだが、図書館の方が身近で意見が出やすいと思い、(7) にした。

- ・これらは、市民の啓蒙やボランティア育成、市民との連携、市民サービスなど生活に密着したものだと思う。

● C 委員

- ・私は、(2)(6)(8) を点検したいと思う。逆に、(3)(4)(5) は、継続してやっていただくしかないと思うので、選ばなかった。
- ・「(2) 交通安全対策の充実を図る」は、市民満足度調査において、交通安全施設の整備に満足している市民の割合が 14.4% で、とても低い。どこを整備すれば割合が高くなるのか、皆さんの意見を聴きたいと思い選んだ。
- ・「(6) 警察、学校、地域などと連携して防犯・安全体制を確立する」は、何が成果指標になるのか対話したいと思い選んだ。
- ・「(8) 文化財の保護を推進し、積極的に情報を発信する」は、市民満足度調査において、文化財が保全されていると感じる市民の割合が 29.3% で、低い。市民の観点から何か評価基準を設定して、それをもう少し高くできるのではというような、何かアイデアが出てくればと思い選んだ。
- ・(1) と (7) は、 を付けた。(1) は、次世代を担う青少年を育てることはとても大切と思うが、天文台とキャンプ以外に何かないのかなと思う。

各委員からの意見終了

次に、挙手による選定。(欠席委員のうち、事前に連絡があった委員分も反映)

【結果】(1) 6 票、(2) 8 票、(3) 1 票、(4) 1 票、(5) 5 票、(6) 9 票、
(7) 5 票、(8) 7 票

● 事務局

- ・結果に基づき、上位 4 つの (1)(2)(6)(8) を外部点検施策に選定してよろしいか。

各委員了承

● 事務局

- ・では、2 月 14 日と 22 日のそれぞれに、4 つのうちどの施策を点検するか、意見があればお願いします。

特に意見なし

- ・では、順番に、2 月 14 日は A 班で施策 (1) と (2) 22 日は B 班で施策 (6) と (8) を点検することによろしいか。

各委員了承

■ 外部点検について (コーディネーターより)

- ・外部点検 (外部評価) について、まず 3 つのことを理解してほしい。
- ・1 つ目は、外部点検とは何か。事業の仕分けではない。方向性の示唆である。こうした方がいいのではないか、こうすべきでは、という方向性を示唆することが外部点検員の

役割。実際にどうするかを決めるのは市長以下執行部と議会の役割。外部点検は、ジャッジ（判断）ではなく、方向性の示唆である。

- ・ 2 つ目は、外部点検は、重箱の隅をつつくことではない。揚げ足を取ったり、あげつらうことではない。良いことは良いとしっかり褒め、逆にまずいことはまずいと指摘することが大事。行政職員は、立場や思い、公平性担保の観点があり、メリハリをつけるのが苦手な傾向にある。反対に、我々民間は、メリハリをつけるのは得意。外部点検員は、良いことは良いと褒め、まずいことはまずいと指摘し、メリハリをつけることが役割。
- ・ 3 つ目は、外部点検は、成長、発展、改善につなげる対話の場である。究極を言えば、行政職員が行う内部評価、自ら振り返り今後どうするか考えること、が十分に機能していれば、外部点検は不要。しかし、内部評価に慣れていなかったり、評価の頻度が低かったり、内部評価では不十分な部分もあると思う。そこに刺激を与えるのが外部点検。外部点検においては、職員の思いや考えていること、これまでの経緯などをしっかり酌みとることが大事。そうであるならば、さらに成長、発展、改善するためにどうしたらよいかを対話する場が外部点検である。
- ・ また、外部点検はオープンな場で実施するため、傍聴者があれば職員は緊張もするだろうし、立場もあり、揚げ足を取られたと感じることもあるだろう。本音の対話を望んでいるが、職員には若干のバイアス（先入観、偏り）がかかる可能性があることをわかっておいてほしい。
- ・ 繰り返しになるが、内部点検がしっかりしていれば、外部点検は不要と思う。内部点検の重要性について、職員側に理解を促す必要がある。
- ・ 実際の外部点検では、職員は事業毎に評価表を作成することになる。評価表の作成は、どこの自治体でも職員が嫌がる。しかし、評価表は3つの重要な意味を持つことを職員にも認識しておいてほしい。
- ・ まず、評価表は職員同士の引継書の意味を持つ。事業がなぜ、いつから始まったのかなどの背景、事業の概略、性格、予算など最低限だが過不足ない情報がつまっている。人事異動の際にも活用できる。
- ・ 次に、事業のカルテの意味を持つ。事業の経年での変化が見える。予算の増減や、いつ改善したか、いつ人員増減をしたか、などが見える。複数年という時間軸で、事業の浮き沈みが見える資料として、とても重要。自分が担当しているこの事業は、今、上昇のタイミングなのか下降のタイミングなのかがわかる。前任者がどんな手立てを講じてきたのかもわかる。
- ・ 3 つ目は、将来的に願わくばだが、住民とのコミュニケーションシートとしての意味を持つものになりたい。住民に行政が何をやっているかを大まかに説明する資料となりうる。評価表の中身の質向上や職員側が中身を理解すること、住民側の読み取る力、慣れも必要になってくるので、将来的に願わくばと思っているが。
- ・ 評価表を作成する価値を職員側にもしっかり理解して、作成してほしい。
- ・ 外部点検では、最初に担当課から10分程度で施策と事業についての説明を行ってもらうが、ただ評価表を読み上げるのではなく、要は何で困っているのか、要は自分たちはどういうことが課題と考えているのか、要はどこで手詰まりなのか、など「要は何」という所を中心に話してほしい。施策や事業の「要は何」を事前にしっかり整理し、そこを

話してほしい。

- ・次に、質疑応答に入る。確認したいこと、背景や意味、趣旨などの質疑応答を可能な限り十分行ったうえで、職員側はどういうことをやろうとしているのか、どうしたいのか、という意向や思いも酌みながら、我々の意見やアドバイスを行っていかうと思う。いきなり意見やアドバイスを行うと的外れになる危険性もあるので、まずは行政側の背景、状況、意向等を聴いたうえで、ならばという形で意見やアドバイスを行い、改善につなげていきたい。説明を聞き、論点を明らかにしたうえで、事実確認、状況背景の確認、意向等を踏まえて、意見やアドバイスを行うという流れである。
- ・一事例として、他市の外部点検を紹介する。
- ・昨年、消防局の消防音楽隊の事業を取り上げた。消防音楽隊の活動が啓発につながる事業になっているか、というのが点検員の一番の心配事だった。指標は、何回演奏したかを設定していたが、啓発事業であることから何人の前で演奏したかの方がよいのではというアドバイスをした。また、啓発につながるということは、その後の行動につながるということなので、防災センター来庁者のアンケートに、来庁のきっかけとして消防音楽隊という項目を追加してはどうかというアドバイスも行った。1年後、改善状況について話を聞いた。点検後、消防局では消防音楽隊が果たすべき役割、啓発について真剣に検討がなされ、音楽を奏でること以外にAEDの紹介や火災予防意識の啓発などを重点的に行うようプログラムの見直しが行われた。加えて、カラーガード隊においては、「火の用心」などのプラカードを掲げるという改善もなされた。他にも、演奏の途中で防災訓練を行うという試みもなされている。この事例では、消防音楽隊において本来の趣旨である啓発に関する意識が高まり、より効果的な事業へ改善されたと思う。
- ・職員の意識改革であったり、何のためにやっているのか、誰のためにやっているのか、やることでどういうことが起こるのか、というイメージができるような仕事の進め方に変えていく必要があると思っている。
- ・非営利系の仕事は、何のためにやっているかをしっかり認識することで、手段の選び方も変わってくる。ロジックモデル表も、目的に対して実際にやっている手段が最適かどうかを見ていく必要がある。場合によっては、やり方を変える必要があったり、目的を変える必要があるかもしれない。
- ・今年度の外部点検は、施策単位で実施する、糸島市において初めてのやり方。今回は、トレーニング期間であると思っている。徐々に慣れていきながら、外部点検自体のやり方も改善できればと思っている。

● A 委員

- ・外部点検当日の担当課の施策、事業についての10分程度の説明が重要だと思う。そこで、課題を明確にしてほしい。説明の仕方については、事務局から担当課へ指示するのか。

● コーディネーター

- ・点検員がどういう説明を必要としているか、事務局から担当課へ伝えてほしい。対話をするには、課題がはっきりしている必要がある。課題がないことはないと思うが、もし現状で課題がないならば、今後の展開についての課題でもよい。課題がない、今

が最適という姿勢では改善が望みにくいので、課題があるから悪いということではなく、より良くするための点検なのだから、個人的には担当課は謙虚に点検に臨んでほしいと思う。外部点検は、事業の健康診断と考えてほしい。

- A 委員

- ・担当課には、あまり構えずに臨んでほしい。

- C 委員

- ・行政は、一度やり始めたものをやめにくい傾向がある。新しいことをやるためには、廃止しなければならないものもあると思う。枠配分予算を有効に活用するためにも、外部点検を上手に利用してほしいと思う。外部点検を、敵がやって来て、非難する場と捉えないでほしい。

- コーディネーター

- ・外部点検は、点検員対担当課の闘い場ではない。より良くするために本質的な話、対話をする場としたい。一緒に、穏やかに対話するという雰囲気作りも大事と思っているので、点検員の皆さんにもよろしくお願いします。

- D 委員

- ・今日のコーディネーターの話は、点検施策の担当課職員にもきちんと伝えてほしい。担当課側は良くない部分は言いたくないというのが、どうしてもあると思うが、外部点検の趣旨をしっかりと伝えてもらい、点検員は担当課が悪いというような非難をしたのではなく、より良くするために質問や意見を行うのだということを職員側にもわかっておいてほしい。

- 事務局

- ・了解した。点検施策の担当課職員へ今日話を伝える。